

鉄橋補強のボルト試作

関西大学と大阪府東大阪市の中小製造業などでつくる「東大阪橋梁維持管理研究会」(会長・坂野昌弘、関大教授)は15日、鉄橋の床板である鋼床版を補強するボルトの試作品を公開した。写真。鋼床版がへこむのを防ぐ補強板を新型ボルトで取り付け耐久力を保

東大阪橋梁研

つ。来年3月の完成を目指す。同研究会は各地で老朽インフラ対策が社会問題となる中で橋梁の修繕や管理に必要な機器・資材を開発するため1月に発足した。「橋守ツール」の名称で開発に取り組み、ボルトは試作品の第1号となる。



開発には巴製作所(兵庫県尼崎市)、東大阪市に本

道路管理者に売り込み

社を置くロブテックスの子会社など4社が参加した。ボルトは下から締め上げた際に先端が補強板を貫通せず、ナットが要らないように工夫した。鋼床版の上に敷くアスファルトを傷つけずに済むという。坂野会長は「道路管理者はこういう補強を探している」とし、完成品の採用を高速道路会社などに働きかけた。考えた。